令和５年度　小学校高学年における教科担任制推進事業の成果等について

令和６年３月２２日
小中学校課

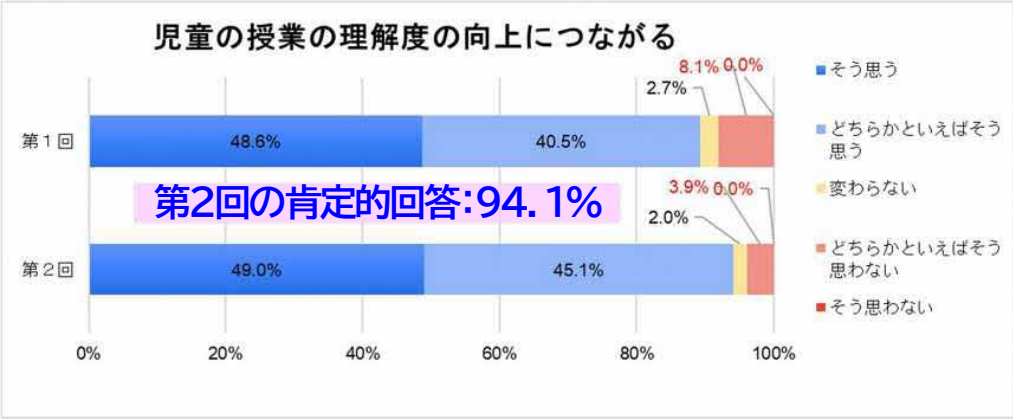
令和３年中央教育審議会答申において、令和４年度を目途に義務教育９年間を見通した小学校高学年における教科担任制の本格的導入が必要とされたことを踏まえ、質の高い学習の保障による児童の学習内容の理解度・定着度の向上及び学校の働き方改革を進めること等を目的として、令和５年度も小学校高学年における教科担任制推進事業を実施した。
「学習指導の充実」「生徒指導の充実等」「働き方改革の推進」「中学校への円滑な接続」を視点に、学級担任間の交換授業と専科教員の教科授業を組み合わせた取組を実施した本事業の成果等を以下のようにまとめた。

１　令和５年度小学校高学年における教科担任制推進事業について

（１）令和５年度の推進協力校
　　鳥取市立美保小学校　　倉吉市立社小学校
　　米子市立福米東小学校　米子市立住吉小学校　境港市立境小学校

（２）推進協力校の実施状況アンケート結果
　　１回目アンケート　令和５年　７月～令和５年８月実施　回答数　３７
　　２回目アンケート　令和５年１２月～令和６年１月実施　回答数　５０

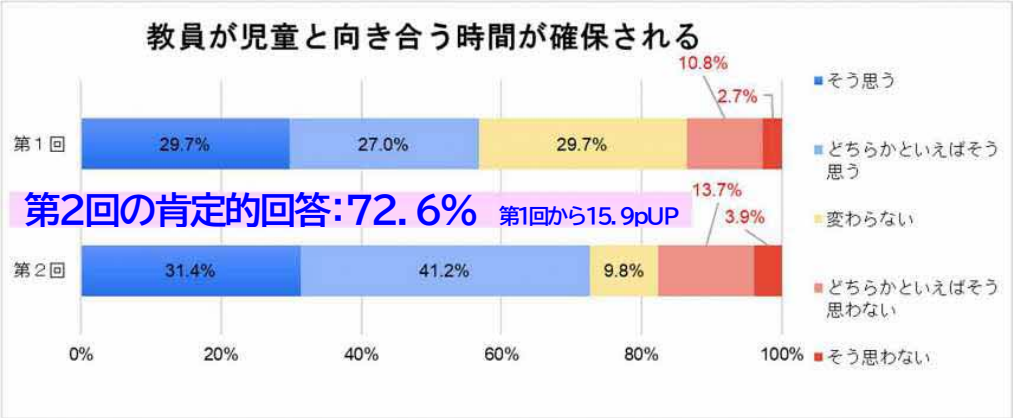
〇教科担任制を導入することによって、児童の授業の理解度の向上につながると思いますか。



ポイント

各教員の専門性を生かせること、また、受け持つ教科が限定され教材研究を充実させられること、複数回同じ授業ができること等が授業改善につながり、児童の理解が向上すると考えられます。

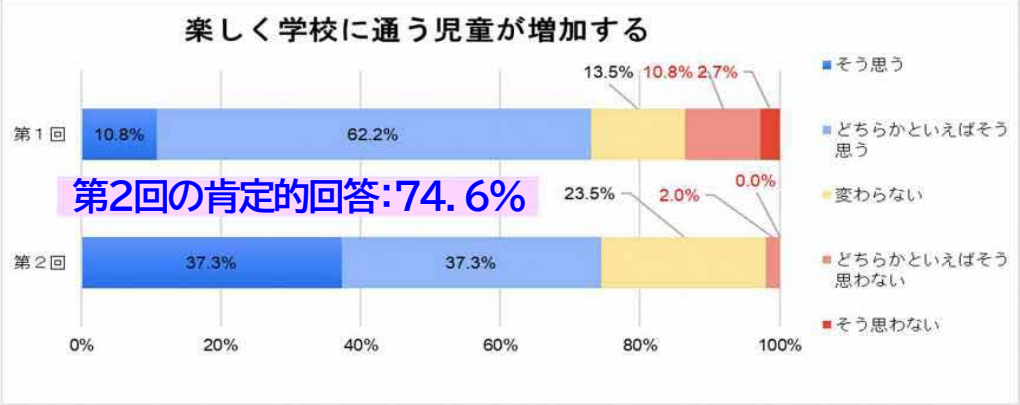
〇教科担任制を導入することによって、教員が児童と向き合う時間が確保されると思いますか。



ポイント

空き時間が生まれることで学級事務や教材研究の時間が確保され、その分、休憩や放課後等に児童と関わる時間が増えると考えられます。交換授業で学級担任が自分の学級の児童に関わる時間は減りますが、他の学級の児童と関わる時間が増えます。また、児童にとっても関わる教員の数が増えます。

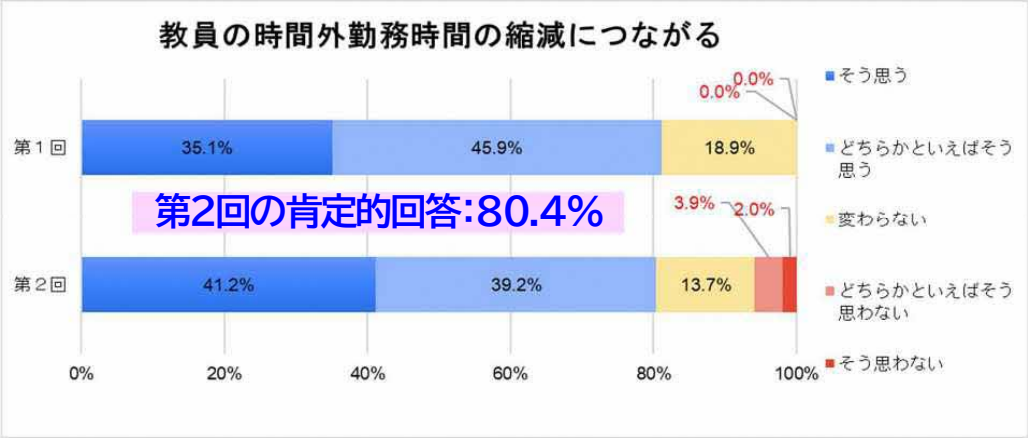
〇教科担任制を導入することによって、楽しく学校に通う児童が増加すると思いますか。



ポイント

児童の授業理解の向上が見られ、教員が児童と向き合う時間が確保されることで、授業が分かることや、安心して生活できることにつながり、楽しく学校へ通う児童が増加すると考えられます。

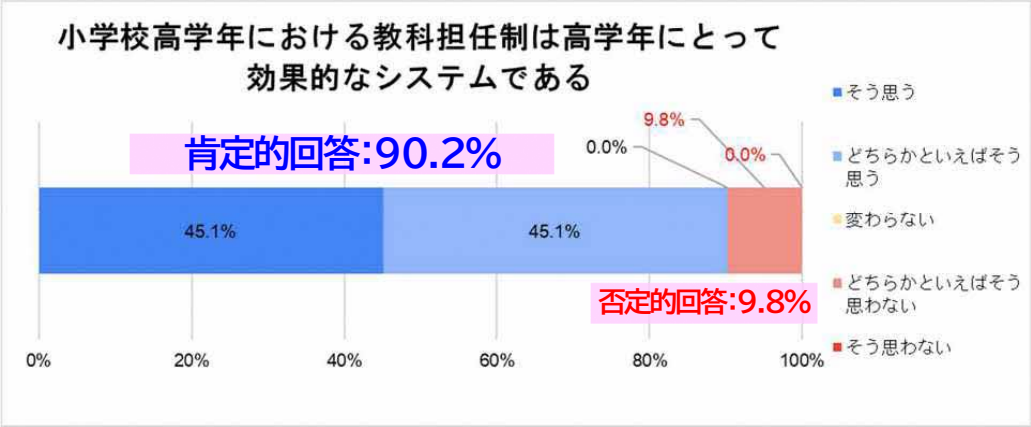
○教科担任制を導入することによって、教員の時間外勤務時間の縮減につながると思いますか。



ポイント

担当する教科の種類や時間数が減少することで、教材研究、授業準備の時間が減り、時間外勤務の縮減につながることが期待できます。中には、学校全体で見ると一部の職員の縮減にとどまっているため、職員全員の縮減につなげなければならないとの意見もありました。

○上記の質問の内容を総合的に考えて、小学校高学年における教科担任制は高学年にとって効果的なシステムであると思いますか。（第２回アンケートのみの回答項目）



ポイント

教科担任制に取り組んだ先生方の約９割が肯定的な回答をしています。ぜひ、今後の導入を検討する際の参考としてください。

２　成果と課題

	成果	課題
学習指導の充実	○教員の得意分野や専門性を生かして授業を行うことによって、児童の興味・関心が高まった。 ○複数学級の授業を同一の教員が行うため、学級間で授業の進度や指導内容に大きな差が生じなかった。 ○教科が絞られることでより深い教材研究ができるとともに、複数回、同一授業を繰り返す中で授業がブラッシュアップされ、児童の理解度の向上につながった。 ○複数の学年で同じ教科の授業を行うため、教科の系統性を意識できた。	○担当する教員によって大きく指導方法が異なることもあり、事前にある程度揃えることが必要だった。 ○教材研究をするにあたって相談できる教員が減り、不安を感じる若手教員もあった。 ○宿題、課題の管理をそれぞれの担当が確実に行わなければならない。
生徒指導の充実等	○教科担任制を行うことで情報共有する必然性が生まれ、学年団はもちろん、専科や級外を含めた学年に関わる教員同士が話し合う機会が増えた。 ○複数の教員で児童の様子を見取ることができるため、子どもの変化に早期に気付き対応できた。	○情報共有するための時間の確保が必要となる。 ○朝の児童の様子を把握するため、１時間目は担任の授業を行えるよう調整する必要がある。
働き方改革の推進	○担当する教科が減り、教材研究や授業準備の時間が削減できる。 ○日常的に様々な教員が学級に関わっているため、担任の急な休みや出張の時に学年団や担任外の教員で対応しやすくなった。 ○児童の様子や授業に関わり、これまで以上に職員間での会話が増え、教職員全体の協働性が高まった。	○学校行事等の特別時間割や急な休暇等の対応で、専科や級外職員の業務負担が大きくなることもあった。 ○教科担任制だと、複数の学年、学級で連続して授業を行うことも多いため、授業と授業の間の時間が５分間だと授業準備や移動、個別の質問への対応が難しい。
中学校への円滑な接続	○教科担任制でさまざまな教員が、それぞれの立場で学習に関わることで、児童が中学校の授業システムに慣れてきた。 ○校区の中学校の教員が１年を通じて６年生の授業を行うことで、６年生と中学校とのつながりができ、児童が安心して進学することにつながる。	○小学校教員と中学校教員が各教科の授業について一緒に話し合う機会を設定することが必要である。 ○教科担任制によって生まれた多面的な児童の見取りを中学校へつなぐ工夫が必要である。

３　小学校高学年における教科担任制推進協力校の事例等（令和５年度）

例１＜交換授業と専科等による授業＞（５年３学級、６年３学級）

	学年組	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担任担当教科数	空き時間数
A先生	５年１組担任	A	K	A	A	H	J	A	A	A	C	A	A	A	5	9	4
B先生	５年２組担任	B	H	I	B	B	B	B	B	B		B	B	B	4	10	4
C先生	５年３組担任	C	K	A	C	C	J	G	B	C		C	C	C	6	8	4
D先生	６年１組担任	D	D	I	D	F	J	D	D	D	E	D	D	D	5	8	5
E先生	６年２組担任	E	H		E			E		E		E	E	E	6	8	5
F先生	６年３組担任	F			F			G		F		F	F	F	6	7	4

G～K先生：専科・級外等

ポイント

国語、算数以外の教科での学級担任間の交換授業、専科教員による授業を実施している例です。

【担任間の交換授業】　：５年（社会、家庭科、外国語）
　　６年（理科、家庭科、外国語）
【専科や級外等による授業】：５年（書写、社会、理科、音楽、図工）
　　６年（書写、社会、音楽、図工）

○担当教科は、各教員の経験や得意分野等を生かす観点から決定している。
○授業時間数の多い国語と算数は担任が受け持ち、比較的時間数の少ない社会や理科、家庭科、外国語等で交換授業を行っている。
○学級担任間の交換授業は、学年すべてではなく部分的に行っている。
○全学年を通して、道徳の一部教材で学年内交換を行っている。

例２＜交換授業と専科等による授業及び中学校教員による授業＞（５年３学級、６年３学級）

	学年組	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担任担当教科数	空き時間数
A先生	５年１組担任	A	A	B	C	I	B	A	A	A	G	A	A	A	5	7	4
B先生	５年２組担任							B	B	B		B	B	B	5	8	6
C先生	５年３組担任							C	C	C		C	C	C	5	7	4
D先生	６年１組担任	E	E	D	F	H	D	K	D	D	J	D	D	D	6	7	6
E先生	６年２組担任								E	E		E	E	E	6	6	5
F先生	６年３組担任								F	F		F	F	F	6	6	6

G～J先生：専科・級外等　　K先生：中学校美術教諭

ポイント

学級担任間の交換授業、専科教員による授業、中学校教員による授業を合わせて実施している例です。

【担任間の交換授業】　：国語、算数、社会・音楽
【専科や級外等による授業】：理科、外国語
【中学校教員による授業】　：図工（６年生のみ）

○専科や級外による授業と担任間の交換授業を組み合わせることで、学級担任の指導教科を絞り込み、持ち時間数の軽減や授業準備の負担の軽減を図っている。
○担当教科は、学級担任の総授業数、授業準備回数の差が少なくなるよう配慮して決定している。
○国語や算数など授業時間数の多い教科で交換授業を行っている。
○K先生は校区中学校美術教員で６年生各学級の図工を週１コマ担当している。

例３＜専科等による授業＞（５年２学級、６年２学級）

	学年組	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担任担当教科数	交流学年の担当授業数	空き時間数
A先生	５年１組担任	A	A	F	A	G	I	A	B	A	E	A	A	A	6	7	3(2年体)	8
B先生	５年２組担任	B	B		B			B		B		B	B	B	5	8	2(2年国)	6
C先生	６年１組担任	C	C	C	C	H		C	J	C		C	C	C	5	8	2(1年国)	6
D先生	６年２組担任	D	D	D	D			D		D		D	D	D	5	8	2(1年国)	6
E～J先生：専科・級外等																		

ポイント

専科、級外職員による授業を中心として実施し、そこから生まれた空き時間を使って、高学年担任が他学年の授業を受け持つ例です。

【専科や級外等による授業】：５年（社会、理科、音楽、家庭科）
６年（理科、音楽、家庭科、外国語）

○各担任などの専門性が生かせるように学年担任・担当教科を決定する。
○学級担任の空き時間を学年で揃えるようにし、その時間を活用して情報共有する。
○教科担任制により生まれた空き時間を活用し、６年生は１年生へ、５年生は２年生など交流学年の授業を受け持つようにして、全職員の持ち時間数の平均化を図る。

令和５年１２月に実施した第２回小学校高学年における教科担任制推進協力校連絡協議会において、文部科学省初等中等教育局財務課企画調査係長から全国の推進校の取組について「小学校高学年における教科担任制に関する事例集～小学校教育の活性化に繋げるために～（令和５年３月）」をもとに紹介していただきました。その事例集の中から小規模校の事例を紹介します。

（事例集より一部抜粋）

例４＜学年を越えた交換授業＞（５年１学級、６年１学級）　※兵庫県　姫路市立野里小学校の事例

	学年組	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	学活	関わる教員数	担任担当教科数	持ち授業時間数
A先生	５年担任	A	A	A	A・D	B	C	C	A・D	A	A	A	A	A	4	9	22
B先生	６年担任	B	B		B・D				B・D	B	B	B	B	B	4	9	22
C～D先生：専科・級外等																	

※小学校高学年における教科担任制に関する事例集～小学校教育の活性化に繋げるために～」
令和5年3月文部科学省作成を基に教員時間割表を作成

ポイント

５、６年生で学年を越えて、社会と理科を交換しています。

○持ち授業時間数をそろえるために、週当たりの授業時間数が近い教科を交換できるように配慮する。
○得意分野の教科を交換授業にすることを推奨する。
○専門性を磨くために、校務支援システムを活用し、事例や教材について他校の教師と情報共有や意見交流を行っている。

※「小学校高学年における教科担任制に関する事例集～小学校教育の活性化に繋げるために～」

この事例集は、義務教育９年間を見通しつつ、教科担任制の更なる導入を円滑に進めるとともに、学校現場において効果的に運用するために、教科担任制を小学校教育の活性化に繋げている好事例について、その特徴や運営上の工夫、効果を「見える化」したものです。

文部科学省ホームページの下記ＵＲＬまたはＱＲコードからアクセスし、教科担任制を検討・推進する際の参考としてください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_00005.html

今後の小学校高学年における教科担任制の取組に向けて

令和６年３月
鳥取県教育委員会小中学校課

各学校の状況に応じて高学年教科担任制の導入の検討をお願いします。

専科教員や級外教員の教科授業に加え、加配の有無にかかわらず取り組むことのできる、学級担任間の交換授業も御検討ください。

検討案①　担任間による交換授業によって、教員一人あたりの指導する教科を減らす。

【メリット】
- １教科あたりの教材研究の時間が増加する。
- １学年複数学級であれば、同じ内容の授業を複数回行うため、その都度、授業内容や指導内容をブラッシュアップすることができ、担当する教科の指導力向上がねらえる。
- １学年１学級であれば、５、６年生をまとまりとして教科の系統性を踏まえた指導ができる。

【デメリット】
- 受け持たない教科の指導に不安を持つ教員が出てくる。
- 教える児童数が増えるため、児童理解に時間がかかってしまう可能性がある。

教科数が減ることは、教材研究や授業準備、テストの丸付け等の業務負担軽減となりますが、特に若手の先生にとっていざ自分が教えるとなったときには不安があると思います。空き時間に受け持っていない教科の授業を参観したり、毎年受け持つ教科を変えて、複数年ですべての教科を指導できるようにしたりするなどの工夫が考えられます。

検討案②　試しに１単元だけで交換授業を行ってみるなど、まずはやってみて「手ごたえ」を実感する。

【メリット】
- １単元のみなので、取組が難しい場合は元に戻せる。
- 他の学級の児童の様子が分かり、学年での指導がしやすくなる。

【デメリット】
- １単元のみでは、子どもとのやり取りがうまくいかない可能性がある。
- 評価も含めて、情報共有の時間が必要となる。

1学年複数学級ある場合、特別の教科　道徳で同一の教材を使い、同じ先生が全学級で授業を行うローテーション授業を行うこともできます。
日頃から、児童の様子や情報を共有することによって、他学級の授業を行う際に、児童の特性や配慮事項等に応じた指導ができます。児童とのつながりを持つ先生が増えることは、児童理解や指導においてプラスに働くことが考えられます。